

平成 23 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 永井 一彰

最終学歴	大谷大学大学院文学研究科博士後期課程仏教文化専攻 満期退学	
取得学位	博士（文学）	
所属学会	日本近世文学会、俳文学会	
専門分野	近世国文学	
研究課題	①板木をベースにした近世出版機構の研究、②近世俳諧の研究	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・言語文学（三） ・国文学史Ⅱ、Ⅳ ・本と出版実習 ・江戸文学論 ・演習Ⅰ（五）、演習Ⅱ（Ⅳ） ・近世演劇鑑賞
	大学院修士課程担当科目 （博士前期課程含）	<ul style="list-style-type: none"> ・古典論特殊講義Ⅰ ・ ・
	大学院博士後期課程担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸文学論 ・ ・
【研究上の特記事項】	平成23年度奈良大学研究助成を受ける（研究課題「奈良大学蔵板木の調査・研究Ⅳ」）	
【教育上の特記事項】	教育・研究においてもっとも大切なのは「ものによってものを考えることだ」という理念に基づき、担当の授業「言語・文学」「国文学史」「演習」「江戸文学論」（以上文学部）「古典論特殊講義」（大学院）等々において、板木・版本・文書そのほか生の出版史料を受講生に見せ、触らせるように心がけている。また学生が近世出版関係で卒論を作成しようとする際にも、版本・板木を直接に扱うよう指導をするようにしている。	
【社会的活動】	俳文学会委員。2011年7月12日産経新聞奈良版「奈良の大学、何を研究！？」欄に「版木と俳諧／日の目を見ないところに着目」として研究室・研究内容が紹介される。2011年12月19日、大阪勝幡寺の「おみくじの板木」について、記者発表。関西テレビ・奈良テレビ・奈良新聞・読売新聞などで報道される。2012年2月4日、「板木・板本をめぐる研究集会」（於・立命館大学アトリサーチセンター）にて「板木は語る」として講演。2012年2月18日、日経新聞夕刊に宇治宝蔵院の鉄眼一切経板木についてのコメント掲載。	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	国文学科博物館委員、狂言研究会顧問、和装サークル「粹蓮」顧問	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
①				
②				
③				
④				
⑤				
(学術論文)				
①延年宛蕪村書簡	単著	2012年3月	「文藝論叢」78号 (大谷大学文藝学会発行)	昨年3月に奈良大学博物館で購入した「延年宛蕪村書簡」の読み・内容・執筆年代について考証した。 竹苞楼旧蔵(現奈良大学図書館蔵)の板木台帳「板木分配帳」紙背の『覚勝院抄』発見の経緯について報告した。
②板木台帳紙背『覚勝院抄』の発見と報告	単著	2012年3月	「奈良大学総合研究所所報」20号(奈良大学総合研究所発行)	
③				
④				
⑤				
(学会発表)				
①				
②				
③				
④				
⑤				
(その他)				
①				
②				
③				
④				
⑤				